

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
10 名張市	対談項目1 若者定住促進プロジェクト 1. 民産学官の連携 (1)高等教育機関への支援	近大高専の魅力を若者にPR	<p>都市部への転出者のほとんどは15歳から29歳までの若者であるので、進学、就職で何とか地元に残りたい思いがある。名張市には近畿大学工業専門学校という実学主義の素晴らしい学校があり、就職率100%、1人の学生に対して30社の引き合いがあり、全国区になっている。近大高専も県の「高等教育機関魅力向上支援補助金事業」に応募して、採択もされたことから、高専の魅力をこれからどんどんアピールしていくんだ、地元密着型をより推進していくんだと考えていただいている。</p> <p>そうした中で、当然ながら、すでに名張市、伊賀地区への中学校へはアプローチしているが、県内に人をとどめておくということは、やはり出身が三重県の方が理想であるので、県内の他の地域の中学校へもどんどんPRしていきたいと考えており、県教育委員会にもこれからご協力いただきたい。</p>	<p>高校生で4年制大学に行く子が、県内全体で8,000人くらいだが、県内にある4年制大学の定員は3,000人で、キャパ・定員がない。大学収容力は全国で46位ということで、高校教育機関の量、質の問題においてニーズを十分捉えきれていない。</p> <p>高校2年生に対して、進路先を選ぶ時に、誰の意見を聞くかと聞いた時に、1番は母親の70%で、母親の影響が強い。県内にいろんな近大高専を含むいい教育機関があることや、こういう働き場所があるよといったことを母親に知ってもらうことが大変重要である。</p> <p>高専という選択肢は、一定の分野では非常に人気があるもののまだまだ知られていない部分があるので、実はそういう選択肢があるということについては、積極的に知ってもらうようにしていきたい。</p> <p>補助金の採択にあたって、近大高専は2つ目標を立ててくれた。ひとつは県内からの入学者を増やすということで、平成27年の200人を平成30年には220人に増やす目標。もうひとつは卒業後県内に定住する割合を増やす目標で、平成26年の17人を平成29年に40人にすることで、県内からの入学者、そして県内に定着してくれる人を増やすことを目標に掲げていただいたので、しっかりと応援していきたい。</p> <p>県内からの入学者を増やすために、いろいろな県内の学校に高専を含む高等教育機関の情報を提供することについては、ぜひしっかりと積極的にやっていきたいし、お母さんにも知ってもらうという努力もしていきたい。</p>
名張市	対談項目1 若者定住促進プロジェクト 1. 民産学官の連携 (1)高等教育機関への支援	近大高専の学生の県内企業へのインターンシップ受入の斡旋	<p>これまで、近大高専へ名張市の地元企業へ就職してもらえるようお願いしてきて、毎年名張の企業へ就職してもらえるようになったが、三重県内の他の企業へも就職がかなえられるように、学生にどんな企業かがわかるように、名張市も頑張るが、三重県も最大限のご協力を県内企業をお願いしていきたい。県内企業へのインターンシップ制をなんとかお願いしたい。</p>	<p>近大高専を卒業した子たちが、県内の企業に勤めるために企業を知るためのインターンシップについては、経済団体に働きかけたり、県内の13の高等教育機関(高専、大学、短大等)で「高等教育コンソーシアムみえ(仮称)」というひとつの連携体を組んでもらって、その13が連携して13の全体の魅力を高めていくとか、いっしょになって県内の企業の研究をするインターンシップをやっていく枠組みをつくっていくというような形で、県内全体の高等教育機関が連携してインターンシップを増やしていこうとか、経営者を招いた学生向けのセミナーや交流会もやっていこうと考えているので、近大高専の学生にも多く参加いただければと思うし、県としては、受け入れてくれる企業を増やしていくような働きかけをしていきたい。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
名張市	対談項目2 若者定住促進プロジェクト 1. 民産学官の連携 (2) 地元雇用の拡大	農業の6次産業化に向けた加工所の整備等に対する支援	<p>農業の6次産業化を頑張っていきたいと考えており、加工、販売につなげていくいろんな計画をもっている。その中で、すでに開発した製品もたくさんあり、ドレッシングや、伊賀米コシヒカリ等のギフトセットとか、三重テラスで販売させていただいている。その売れ筋も分かってきていて、それを今後、もっともっと生産していくために、ネット販売や、滝之原小学校の給食室を加工所に整備していくなどのことを考えており、国の制度、県の制度、いろんなファンド等をフルに活用して整備していきたいと思っているので、全面的な技術面も含めてご協力をいただきたい。</p>	<p>三重テラスで、この8月から9月にテストマーケティングということで、いきなりお店に出すのではなく売る練習をしてみ、消費者の意見とかを聞いてそれを改善することを、「なばりタカラモノシリーズ」の商品で取組をしていただいたり、8月には名張市の観光交流室の主催で、奈良・三重連携講座というので三重テラスにて観光・物産のPRもやっていただいている。</p> <p>いくつか好評な商品も出てきているので、テストマーケティングの結果等を踏まえながら、商品を三重テラスでそのままずっと置くとか、あるいは、三重テラスのレストランで使っていくとかも考えていきたいと思うので、具体的にそれぞれ相談していきたいと思います。</p> <p>販路開拓で、どのようなところに売っていくとか、売れる物づくりの商品開発については、さまざまな補助金やファンドがあるので、活用していただきたいし、その活用のサポートもしたいと思います。</p> <p>加工所のハード整備制度については、現時点では県にはないが、国にはいくつかファンドとかあるので、いっしょになって獲得していく取組も是非議論したいと思っている。加工所を整備したので売れていくというもあるだろうし、売れていくものがどんどん増えるから加工所が必要ということもあると思うので、商談会とかも積極的にやっているので、特に売る方の商談会を含めた加工所の整備の必要性が高まっていく部分について、一緒に取り組んでいきたいと思います。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
名張市	<p>対談項目2 若者定住促進プロジェクト 1. 民産学官の連携 (2)地元雇用の拡大</p> <p>エコノミックガーデニングに係る民産学官連携</p>		<p>いろいろな仕事を起こしていきたいという若者や、ちょっと芽が出てきた事業所に対して、民産学官が連携して支援していくエコノミックガーデニングについて名張全体をそのようにしたいと考えている。名張市へ行って起業をしようかという気分させられるそんな環境を整えていくためには、民産学官が連携しなくてはならないし、県のいろいろな研究所のノウハウや、技術も欲しいし、人が一定期間張り付いてでも、やっていただければと思っているので、エコノミックガーデニングを作っていく体制のために県の絶大なフォローをいただきたい。</p> <p>また、都市部から、自分の家族が食べるものは自分で作りたいという人がある地域に来られて、そこで農業のまさに達人に指導してもらって学んでいる。</p> <p>その方のように、家でパソコンがあればかなりの部分仕事ができる、会社には一週間に2回、3回でいいというような方についても生活がかなえられるように、その体制を作っていければと思う。</p>	<p>名張市は関西圏のアクセスもいいし、名張で創業し、朝農業やって、昼からビジネスみたいな、特有のライフスタイルを提供できる場所だと思う。</p> <p>今年4月末から東京有楽町のふるさと回帰支援センターに三重県の移住相談センターを設置し、だいたい4ヶ月で240件の相談がありました。どここの土地に移住したいという相談はほとんどなく、こういう感じのライフスタイルのあるところ、こういうことが出来る場所に移住をしたいという相談が多いので、ビジネスと農業をやっていくライフスタイルなどを売っていくことができるという意味で、名張市は強みを有していると思う。移住相談センターで受けた相談を、市町に繋いでいく作業もしているので、活用していただきたい。</p> <p>また、移住相談センターでは、起業相談デスクを、東京と大阪でそれぞれ年4回実施する予定なので、名張市のことについていろいろ伝えることができるし、三重県で創業する時の金融支援、融資の利子優遇、初期費用補助とかの制度も多々あるので、複合的に活用していただきたいと思う。</p>
名張市	<p>対談項目3 若者定住促進プロジェクト 2. 空き家の活用 (1)リフォーム助成の充実</p> <p>「移住促進のための空き家リノベーション支援事業」の補助金額の拡充と支援機関の延長</p>		<p>人口減少社会になって、国も新築のものをどんどん作っていくよりか、今ある中古住宅をリフォームして活用していく方向へ転換している。</p> <p>名張市も空き家がたくさんあり、若者の定住の促進にも繋がるのでどんどんやっていきたいと考えている。</p> <p>県も国のまち・ひと・しごと交付金を活用し空き家リノベーション支援事業として、1件100万円の補助をしていただいている。名張市にも、第1号として奈良から来ていただいた夫婦に補助をいただいたが、実はまだ希望されている方がたくさんいらっしゃる、非常に有効だと思うので、この制度の拡大について知事の考えをお聞かせ願いたい。</p>	<p>この補助事業そのものが県外からの居住者の方の、空き家のリフォーム費用の一部を助成する事業ですので、利用していただいて、県外から来ていただくということは大変ありがたいと思います。</p> <p>三重県の空き家比率が13%、建っている建物の7分の1くらいは空き家になっている状況で、空き家対策は防災上も景観上も重要な課題であると思っており、今回、地方創生の交付金を活用して、移住と空き家のリノベーションを組み合わせさせた事業を、27年2月補正で創設して、半年ぐらい経ちましたので、9月上旬に各市町の事業執行調査を実施して、その状況を見て、追加配分をしていくことも考えています。</p> <p>さらに今後年度を越えてということについては、いろいろな財源、地方創生の交付金の状況、各市町の執行状況とかを見て、相談させていただいて、考えていきたいと思います。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
名張市	対談項目4 若者定住促進プロジェクト 2. 空き家の活用 (2) 特定空き家等に対する措置	特定空家等の解体除却への支援	<p>国は「空家等対策の推進に関する特別措置法」をスタートさせましたが、名張市も条例をこの9月に定例会にあげたいと思っている。空き家を積極的に活用するという事で、老朽化した危険な住宅を、行政が代執行できるのがやりやすくなったが、1件処理するのに、かなり費用がかかる。請求出来る方がいればいいが、相続放棄や支払能力がないとかの困難な理由がある方もいらっしゃるかもしれないので、法律には、国、県は財政措置を講ずるものとする書かれている。</p> <p>危険家屋を撤去することに対して、県としてのルール作りを考えていかれるか、お聞かせ願いたい。</p>	<p>空き家が防災上も景観上も、また、地域の資源上も重要な課題だと認識している中で、三重県がどういう役割を果たしていくのかを、「空家等対策の推進に関する特別措置法」を受けて、特に来年度に向けて考えていかなければならないと思っている。</p> <p>国がモデル的に示していただいているものとかで、他県がそういう事業を実際にやっているところがあるが、それらは国の社会資本整備総合交付金を使っているの、それらとの兼ね合いとか、高市総務大臣は空き家のことに関心が高く、空き家の除却、解体にかかった費用、あるいは活用にかかる費用を一定の空き家対策計画みたいなものを作れば、特別交付税で面倒をみるということも、議論したいという話もありますので、そういう国の動向も見ながら、来年度に向けて、県の役割はどういうところで、どういうところに財源やルール、技術的な支援等も含めて、どうやっていけばいいか、よく議論していきたいと思っている。</p>
名張市	当日追加項目 伊勢志摩サミットについて		<p>県が当面する課題の最大のテーマがサミットの成功であると思うが、県民あげて盛り上げていきたいという思いがある。</p> <p>名張には全国ブランドのお酒、果物、肉もあるので、参加できる場面があれば、またお願いをしていきたい。国が決めることでもあるので、難しい部分もあると思うが、県内には全国ブランドのものがたくさんあるので、そういうところで参加がかなうようなこともまた考えていただければと思う。</p>	<p>海外のプレスツアーについて、全県を回っていただくこととされており、名張を含む伊賀地域にもプレスツアーで来てもらうことをぜひ考えたい。また食材については、今市町からも含めて、募集をしているので、ご提案をいただきたいと思うし、政府も特に今年になって行われている国際会議では地域の食材を使うということを十分意識してもらっているので、三重県全体の食材についてしっかり提案していきたい。</p> <p>また、若者たちをしっかりと県内にも回ってもらうようなジュニアサミットの開催をやるうとか、できれば子供たち、例えば、名張のこの高校はアメリカのことを対応して、勉強してもらおうようなこととかも考えたりしたいと思っている。</p> <p>全県の取組になるようにしっかり情報提供させていただきながら、こんなことで動いているということを知っていただく努力をしっかりとやっていきたいと思うので、是非みなさんご関心をもっていただけるとありがたいと思う。</p>